

平成26年度施策評価シート(平成25年度実施事業)

作成主管課	スポーツ振興課
	関係課
施策名	スポーツ・レクリエーション
施策コード	5-2-2

総合計画後期基本計画の内容 ※H24.2月策定

政策体系	政策	第5章 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります
現況と課題	<p>平成23年に施行されたスポーツ基本法の前文にあるとおり、スポーツは世界共通の人類の文化であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠のものとなっています。また、高齢化が急激に進展する中、疾病構造が変化し、生活習慣病が増加していることなどから、健康づくりの取り組みや人々の健康志向は高まっており、体力、精神の両面においても運動の重要性は増えています。</p> <p>本市では、合気道やゴルフといった地域資源を生かした各種のスポーツ活動や、ニュースポーツの普及を展開するとともに、学校体育施設の開放など、活動の場の提供を進めてきました。また、体育協会と連携してスポーツ少年団や各種の市民活動団体の支援に努め、競技スポーツと生涯スポーツの両面での活動支援を実施し、身近で多彩なスポーツ・レクリエーションの推進に努めてきました。</p> <p>今後は、生涯スポーツと競技スポーツの双方を通して、子どもたちの人間形成といった教育的な側面はもとより、精神的・身体的に市民全員が健康で質の高い生活を送るスポーツ・レクリエーション環境を構築していく必要があります。</p>	
施策目標	「いつでも、どこでも、だれとでも、いつまでもスポーツを」を基本理念として、関係機関と連携を図りながら、市民が豊かなスポーツライフを送る環境を構築するとともに、特に成人のスポーツ実施率の向上を図ります。	

1 総合計画進行管理

市民からの意見・反応等	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実を望む声が多い。かさま陶芸の里ハーフマラソン大会は、ハーフマラソンの部を導入したことにより、参加者は前年度より大幅に増加した。また、大会が参加者から評価されたことにより、「2013全国ランニング100撰」に選出された。
-------------	--

(1) 目標指標1

市民実感度指標		H23現状値	H24	H25	H26	H27	H28
週1回以上の頻度で運動やスポーツを実施する市民の割合	市民実感度	30.920	30.320	30.720			
	加重平均値	1.946	1.944	1.946			
当施策を重要と感じている市民の割合	重要度		75.310	77.310			
	加重平均値		3.104	3.093			

(2) 目標指標2

数値指標		単位	H23現状値	H24	H25	H26	H27	H28
スポーツ少年団指導者資格保有率	目標値	%		52.00	54.00	56.00	58.00	60.00
	実績値	%	48.90	50.60	56.03			
	達成度	%		97.31	103.76			
	ベンチマーク							
スポーツ教室 教室数	目標値	教室		8	8	9	9	10
	実績値	教室	7	8	8			
	達成度	%		100.00	100.00			
	ベンチマーク							
スポーツ教室 参加者数	目標値	人		930	930	930	930	930
	実績値	人	747	893	1,164			
	達成度	%		96.02	125.16			
	ベンチマーク							
数値指標の考え方	指標設定の考え方	・有資格者から団員が適正な指導を受け、スポーツの楽しさを味わい習慣化することで、子どもたちが大人になってからもスポーツ活動を継続していくことが考えられることから指標とした。 ・スポーツを始めるきっかけづくりとなるスポーツ教室の数と参加者が増えたとスポーツの実施率も向上すると考えられることから指標とした。						
	目標値設定の考え方	・スポーツ少年団指導者資格保有率は、毎年4～5名(2%)の有資格者増を目標とした。 ・スポーツ教室は、これまで実施されていたものを継続するとともに、新たな教室を加え、参加者も微増する目標とした。						

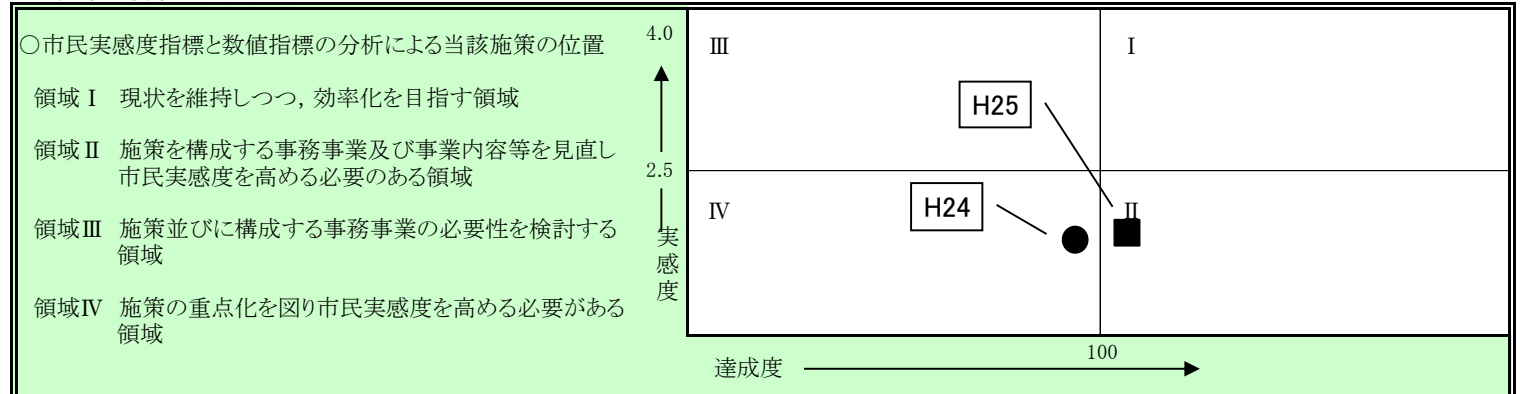
2 施策の成果向上に向けての市民と行政との役割分担をどう考えるか

市民の役割	市民(地域・団体・事業所)が自助でやるべきこと。共助でやるべきこと。市と協働でやるべきこと。 ・市民一人ひとりが健康への意識を持ち、自主的にスポーツに取り込むこと。
行政の役割	市がやるべきこと。県がやるべきこと。国がやるべきこと。 ・市民の自主的なスポーツへの取組みを支援する。 ・体育協会、スポーツ少年団、スポーツ推進協議会の活動を支援する。

3 平成25年度の取組状況

取組状況等	<p>取り組み内容と成果、成果が得られた要因として考えられること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育協会やスポーツ少年団等の団体やスポーツ推進委員協議会が実施する事業を支援するとともに、行政が事業を実施することにより、より多くの市民がスポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会を提供した。 ・平成25年度から指定管理者が変更となったが、指定管理者とスポーツ振興課の定期的な協議・打合せを重ね連携を図ることにより、円滑な施設の管理運営及び指定管理者が行う自主事業(各種教室)を積極的に実施することができた。
-------	--

4 施策の評価(現状分析)



指標を分析した結果施策目標は達成されたのか

達成度評価	数値指標は、目標値を達成したが、スポーツ少年団指導者資格保有率については、単位団において2名以上となり更に保有率が上昇するよう、今後も近隣で開催される講習会に積極的に参加するよう働きかける。スポーツ教室数及びスポーツ教室参加者数についても、市民のニーズを把握し、幅広い年齢層の参加促進を図れるよう指定管理者と連携していく。
-------	---

施策目標を達成するための手段(事務事業)の構成は妥当か

構成事務事業の適正性	子どもから高齢者まで、全ての年代を対象とする事務事業で構成されており、適正と考える。
------------	--

平成26年度以降に残る課題、その要因として考えられること。

残された課題	少子化によるスポーツ少年団の団員減少及び団数の減少、高齢化による指導者不足等単位団の運営が難しくなってきた。
--------	--

5 今後の方向性

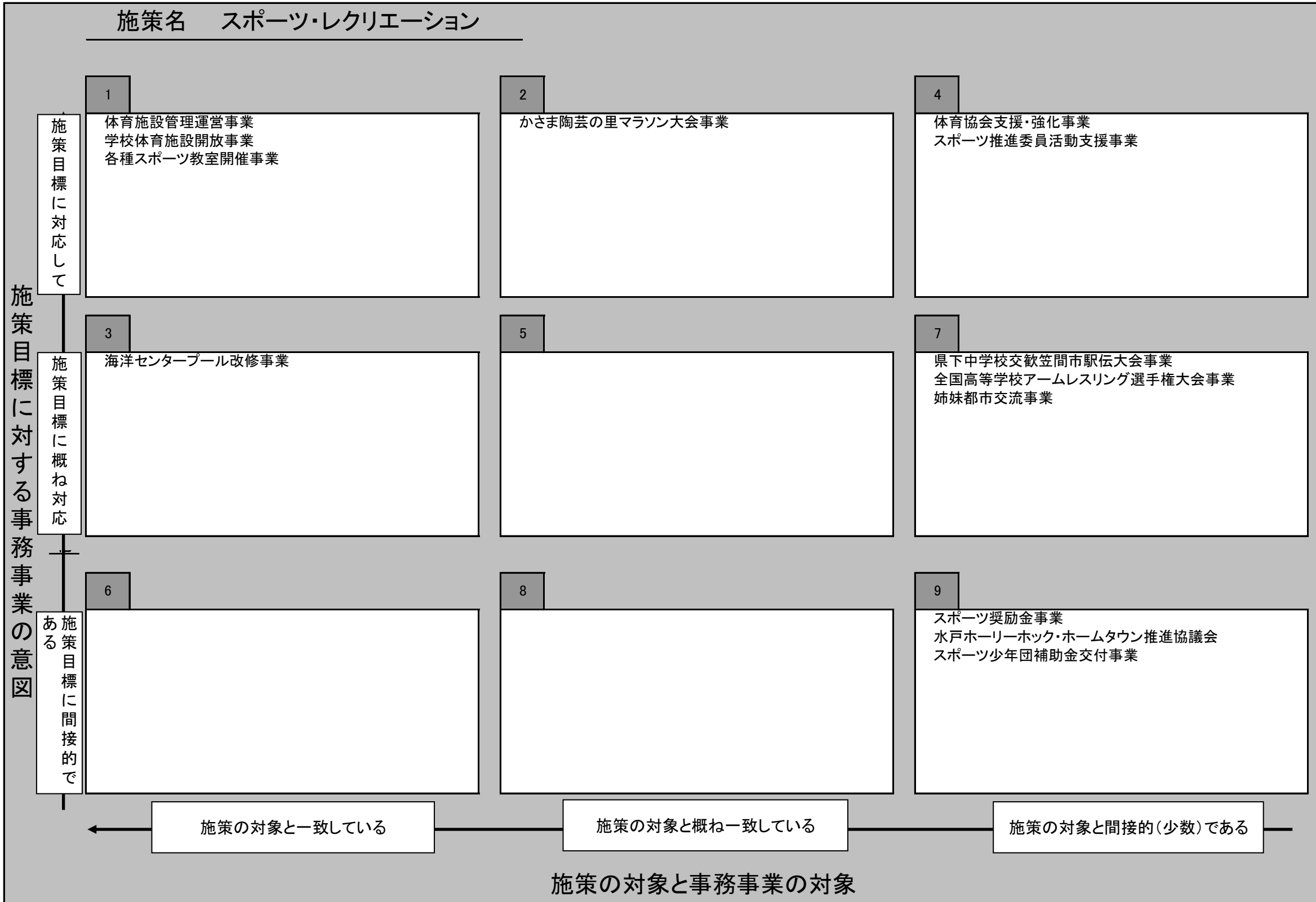
取組方針	<p>平成27年度に向けた施策方針</p> <p>市民のニーズを把握し、市民がスポーツ・レクリエーションを始めるきっかけとなる事業や指導者・場所・サークル(仲間)の紹介などといった各種スポーツ・レクリエーションの情報提供を充実させ、子どもから高齢者まで、市民が自主的・主体的にスポーツ・レクリエーションに参加できるよう、施策を展開する。</p>
------	--

シート3-1 施策構成事務事業貢献度評価

施策を構成する事務事業	事業内容	事務事業性質	成果					補助区分	事業費(千円)			貢献度評価	
			成果指標	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度		
1	かさま陶芸の里マラソン大会事業	小学生・親子・中学生・一般の4部門で23種目に約4,000名が参加。参加料あり。関係団体と連携し大会を運営。笠間市を全国にPRするとともに参加者の健康増進、体力の強化を図る。	政策的事業	市民参加者数 市外参加者数	人	1,788 2,148	1,825 2,344	1,873 3,013	市単独	3,800	3,800	9,196	3
2	全国高等学校アームレスリング選手権大会事業	高校生の健全育成と地域活性化を目的に開催し、「アームレスリングのまちかさま」として全国に名を馳せてゆく。また、大会を笠間市の情報発信の場としていく。	政策的事業	参加高校数 参加者数	校 人	37 95	56 148	57 128	その他 補助	4,000	4,000	4,000	11
3	県下中学校交歓笠間市駅伝大会事業	東京オリンピックの開催を記念して始まった中学生対象の駅伝大会。H24は第50回の開催を迎える歴史。中学生の健全育成と競技力向上を図ることを目的に開催している。	政策的事業	参加校数 参加チーム数	校 チーム	39 103	38 95	34 87	市単独	1,248	1,121	1,351	11
4	体育協会支援・強化事業	笠間市体育協会加盟団体が開催する各種スポーツ大会や各種スポーツ教室を側面から支援し、スポーツの振興を図る。加盟団体数 30団体	政策的事業	登録人数	人	3,778	3,817	3,642	市単独	3,152	3,152	2,455	6
5	スポーツ推進委員活動支援事業	スポーツ推進委員は、市民の身近な立場からスポーツ振興施策の推進を図る役割があり、各種研修会を通して指導者としての資質向上を図る。スポーツ推進委員数 30名	政策的事業	活動延日数	日	304	348	266	市単独	1,089	1,350	1,197	8
6	学校体育施設開放事業	市民が身近にスポーツを実践することができる場、また、活発な交流が行われるコミュニケーションの場として学校体育施設を市民に開放する。 体育館 21施設 グラウンド 21施設	政策的事業	利用団体数	団体	176	166	164	市単独	144	144	84	1
7	姉妹都市交流事業	栃木県矢板市で行われる矢板高原マラソン大会に笠間市民を派遣。かさま陶芸の里マラソン大会に矢板市民を受け入れ、相互に大会に参加してもらい交流を図っている。	政策的事業	参加者数	人	38	40	33	市単独	33	49	24	12
8	水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会	茨城県、周辺市町村並びに産業経済団体等と連携を図りながら、水戸ホーリーホックを組織的、広域的に支援し、次代を担う子どもたちの夢を育て、地域に根ざしたスポーツ文化を創造する。	政策的事業	笠間市民の日参加者数	人	309	464	510	市単独	—	500	38	12
9	スポーツ奨励金事業	市独自の奨励金制度により、笠間市を代表して全国大会等に出場した場合に奨励金を交付することにより、スポーツの振興を図る。	政策的事業	奨励金交付者	人・団体	39	65	54	市単独	1,090	1,200	960	12
10	スポーツ少年団補助金交付事業	スポーツによる青少年の心身の健全育成を目的に活動しているスポーツ少年団に補助金支援を行い、組織の強化、活動の活性化を図る。スポーツ少年団数 39団	政策的事業	補助団体数	団体	39	40	39	市単独	2,028	2,028	2,028	9
11	体育施設管理運営事業	指定管理者制度を導入。直営施設についても維持管理を行う。施設管理 体育館2 グラウンド10 テニスコート3 武道館2 弓道場1 プール1	維持管理事業	体育施設数	箇所	19	19	19	市単独	116,047	91,102	193,801	1
12	各種スポーツ教室開催事業	ウォークラリー大会・ちびっこスケート教室を開催したほか、B&G水泳大会、スナッグゴルフ大会の開催に際し、支援を行った。	政策的事業	参加者数	人	166	263	521	市単独	123	197	170	4
13	海洋センタープール改修事業	昭和58年に整備された施設であり、全体的に老朽化が進んでおり、改修が必要である。また、平成24年5月6日の雹害により屋根に穴が開いてしまったため、整備する必要がある。岩間中学校を改修する際、岩間海洋センタープールを拠点として活動していた	建設・整備事業	海洋センタープール改修	箇所			1	市単独	0	0	97,687	5
14													
15													
16													
17													
18													
事業費合計									132,754	108,643	312,991		

シート1 施策構成事務事業目的直結度評価

施策名 スポーツ・レクリエーション



法定受託事務(義務的事業に分類)

事務事業の成果基準の説明

